

階から実施後までの実状の細かい説明を受け、ごみの減量化への取り組みについてもあわせて説明を受けました。質疑を終えてごみ袋の有料化がどのようなものになるかのイメージを持つ事ができ、また今後の問題や解決策についてもいろいろな示唆を得る事ができた視察でした。

伊豆つくし学園

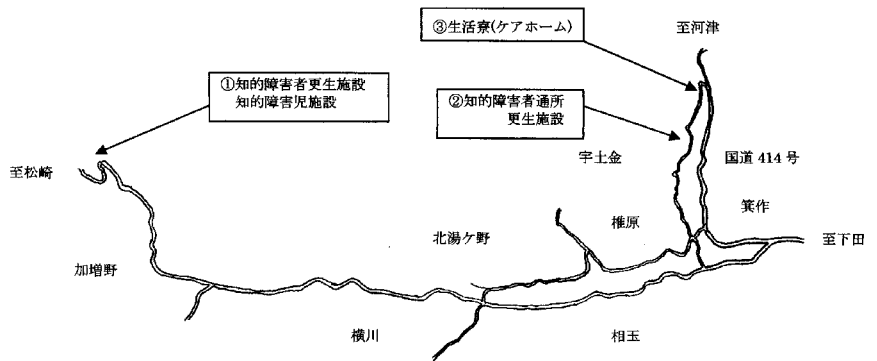
伊豆つくし学園は昭和四十八年の開園から三十四年間賀茂地域の障害者福祉の拠点として障害者の多方面に渡る生活を支えてきましたが、施設も老朽化し、改築へ向けての長年の願いも一市五町の財政上実現が難しく、また国の三位一体の改革等により公設公営では改築の補助金も出ないとのことから、一部事務組合（一市五町）を解散し、社会福祉法人（仮称）「伊豆つくし会」を新設して今後の施設整備と管理運営をしていく準備を進めています。

成人の利用者は、今後とも他の施設に受入枠がなく移行することは困難と思われるため、今回の改築計画に伴い従来の知的障害児施設から障害児・障害者併設施設に移行を予定しています。このことにより、知的障害者が期間延長して児童施設に生活するという現在の不自然な利用形態が解消されることとなります。



伊豆つくし学園

用者は、十八歳未満二十二歳から二十歳未満の人が四人、二十歳から三十三歳が二十人の四十六人という現状になっております。



進められている改築計画は知的障害児施設・知的障害者更生施設 知的障害者通所更生施設 生活寮（ケアホーム）×二棟です。知的障害児施設・知的障害者更生施設は現在伊豆つくし学園のグラウンド部分に鉄筋コンクリート造二階建が建設されます。知的障害者通所更生施設は入所施設の

利用者の一部が今後地域生活へ移行する訓練の場として、敷地外での通所訓練が必要であることから、現在の場所から離れた宇土金地区に鉄骨造平屋建およそ三百八十七㎡の施設が建設され在宅からの利用者も予定されています。「障害者自立支援法」で、「新たに介護付の共同住宅」「共同生活介護（ケアホーム）」が新設され、知的障害者の一部の利用者はケアホームに移行していくことなどから宇土金地区に男子と女子の木造平屋建二棟、定員十二人の施設の建設を計画しています。

基本計画に基づく三施設の予定建設事業費は、知的障害児施設・知的障害者更生施設が本体工事費含めおよそ九億二千八百万円、知的障害者通所更生施設がおよそ九千八百万円、生活寮（ケアホーム）×二棟がおよそ九千四百万円で総事業費はおよそ十一億二千万円を見込んでいます。

施設整備等にかかる事業費は、国庫補助 県費補助、

福祉医療機構、県社会福祉協議会からの借入金に加え一市五町のそれぞれの負担割合による負担金、法人単独費などが当てられることとなります。

「どんなに障害の重い人でも、地域で安心して暮らしたいけるような福祉サービスを整備し、利用者一人一人の幸せ実現に寄り添うと共に、保護者の安心を支えていく。さらに在宅福祉サービス展開の拠点施設、福祉教育の推進、ボランティアの育成、福祉専門職員の養成に携わっていく」という社会福祉法人の理念が一日も早く実現すべきと考ま

議会を 傍聴しましょう

市議会へのご意見
ご要望をお寄せ下さい

TEL 0558 22-2220